

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
TEL 06-6765-8904  
FAX 06-6765-8905

## 大障教「発達学習会」

大障教は2月14日に、「発達学習会」発達がわかれば、子どもが見てくる」を開催し、17人が参加しました。発達学習会は、宮本郷子さん（立命館大学講師）を講師として昨年度から連続開催しているものです。今回は、「教科入門期の子どもの学びと育ち」話しことはが広がりはじめた子どもの発達を踏まえて」と題して、宮本さんとお話をされ、そのあと、参加者同士で日頃の教育実践を交流しました。

# 子どもを「発達」の視点でとらえ 気持ちやねがいを大切にしたい実践を



宮本さんを囲んで、  
お話と交流で学び合いました

宮本さんは、3歳半頃、4歳半頃、5歳半から7歳半頃の子どもの発達の様子を概観しました。3歳半頃は、話し言葉による表現力が広がり始めている時期であり、「話したいことがいっぱいある暮らし、いろいろな気持ちを伝えたい人がいることが大切」と話しました。

4歳半頃は、話しことばの世界を豊かに広げつつ、なかま関係や自分を見つめる力をつけながら、書きことばを獲得していきます。ことばの発達では、「こうして、こうして、こうなると頭のなかでいろいろなことをたぐるようになっていく」と話しました。

### 通勤手当制度が改正されます

府教委は、校長・准校長に「通勤手当制度の改正について」（通知）を発出しました。これは、府労組連闘争における当局回答の具体化であり、教職員組合の運動が職場要求の実現を勝ち取りました。

今回の通知内容は、1. 令和8年度からの通勤手当制度の改正内容、2. 必要な手続きです。通勤手当制度の改正には、(1) 鉄道にかかる経路の決定基準緩和、(2) 同一駅の取扱い廃止が含まれています。

#### (1) 鉄道にかかる経路の決定基準緩和

現在、自宅最寄駅から勤務先最寄駅までの通勤経路の決定について、経済性の観点で5割増まで認定可ですが、制限がなくなります。これにより、「乗換回数減」を満たすが、5割増の範囲を超えると認定されなかった経路が認定可能となります。

#### (2) 同一駅の取扱い廃止

現在、自宅最寄駅の決定について、地図ソフトで地図上の同じ場所に表示される複数の駅は同一駅とみなします。改正後は、自宅直近駅の決定の際に、近距離に複数の駅がある場合、自宅からの徒歩による距離が一番近い駅を自宅直近駅とします。

### 参加者の感想

- 新卒で、授業に行き詰っているなか、どういう風に授業に取り組めばいいか、児童生徒の実態に合ったことができていますか、などとても勉強になりました。
- 先生も子どもも心動く楽しい授業を、丁寧に時間をかけながら行っていききたいと思いました。
- 算数、国語の実践のお話がとくに興味深かったです。教科学習と言えば、タブレットやプリントなど平面の世界にひとりで向き合うような内容になりがちですが、そこにいたるまでの、経験や集団を通じた理解の土台を大切にしたいと思いました。

5歳半頃から7歳頃は、「だんだん大きくなる丸（小さくなる丸）」を描くことができるようになってきます。「家から〇〇までどうやって行くか」の問いに、道を描けるようになります（正しい道ではなくてよい）。こうした力を土台にして、覚えた文字を使って文を綴ることができるようになります（文脈形成力）。

宮本さんは、発達の道筋を説明したあと、「おはなしからはじめたし算・ひき算」「伝えたいことを絵で表現し文字を書き加える」など算数・国語の様々な実践事例を紹介しました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス: [fushoukyou\\_1@mtb.biglobe.ne.jp](mailto:fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp)

### 書記局の つうしん

「Z世代」とは、1996年頃から2012年頃に生まれ、生まれた頃からインターネットがある世界に育ち、10代・20代の時期をSNSを使いながら過ごしている、現在14歳から30歳ぐらいの世代を指すようだ。

Z世代は、多様性・個性というキーワードで語られることも多い。大庄若者研究所「D・Z1ab」が、彼らの個性や価値観が表れやすい「休日の過ごし方」を8タイプに分類した調査結果（2025）を公表している。①趣味没頭家・ひとり時間を堪能②ゆったりご自愛系・心身をメンテナンス③多忙アクティブ陽キャ・エネルギーシユな休日④生活派ていねいさん・休日はプチ贅沢⑤基本合わせる系・誘われたらうれしい⑥詰め込み社交家・おしゃべり大好き⑦おこもり自堕落さん・のんびりを愛する⑧休日こだわりなし派・何にも縛られず気ままな休日 みなさんはどれに当てはまりますか？

筆者は、「X世代」（40代）だが、初任者の20代の頃は「⑤基本合わせる系」のタイプ。障害児教育のこともよくわからず、目の前の子どもたちとどう関わったらよいか悩む時に、職場の先輩教員に誘われて組合主催の学習会に参加した。「発達」に関する講座、授業のネタをゲットできる「歌あそび講座」「絵本講座」、同年代の青年実践レポート報告から語られる悩み等、自分の実践と照らしながら学ぶことで、「子ども理解」のヒントをもらうことができた。なにより、先輩教員に誘われてうれしかったことを今でも思い出します。

4月、大障教では新歓期の学習会を開催します。Z世代の青年のみなさん、たまには職場の仲間と一緒に「学びあい、つながりあう」休日の過ごし方もおすすめですよ。

# あたりまえの教育条件整備にむけて抜本的に支援学校の増設を！ 大規模校でも、すべての子どもと教職員に給食の提供を 教職員の抜本的増員、寄宿舎教員採用試験再開、子の看護休暇拡充を

## 大障教 課別交渉 (人事課・保健体育課・企画課)

2月4日、大障教は、人事課、保健体育課、企画課と交渉を実施しました。交渉には16職場3専門部22人が参加しました。  
交渉では、厨房の拡張、教員増、寄宿舎教員の採用選考実施、栄養教員の複数配置、子の看護休暇の拡充、腰痛軽減措置の運用改善などを求めてやりとりをしました。寄宿舎の栄養職員配置、子の看護休暇の拡充等、栄養教諭の複数配置、腰痛軽減の運用改善は次号で紹介いたします。

### 必要な給食を提供するための手立てと教員不足の解消を

寝屋川支援分会が、昨年途中、一部教職員に給食が提供できなくなった実態と、次年度の児童生徒数が450人を超える見込みについて発言し、新年度4月から児童生徒、教職員に給食が提供可能となる条件整備を求めました。  
府教委は、今後の給食提供について、「保体課単独で改修ができるような状況ではない」、「保体課ができる部分は、献立であったりとかいろいろな部分で工夫して頂いたりということで、学校と協力して進める」と述べるにとどまり、4月からの全教職員への給食提供について、確約的な話がないと述べています。  
また、教員の欠員対策も併せて要求しました。  
府教委は、教員定数法の矛盾について、「我々としても認識している」とし、「国に対して、乗数の見直しをお願いしている」と申しましたが、具体的な教員配置については回答しませんでした。

### 教職員の抜本的増員を

枚方支援分会が、通学区割の変更によって高等部の生徒数が縮小し、小中学校の児童生徒数比率が高くなる現状から、教員定数法の矛盾により教員不足が深刻になっている実態を発言しました。また、交野市、枚方市全域を通学区に戻して学校を二つに分けると45人もの教員が増える「分会の独自試算」をもとに、大規模校化の解消と、通学区区域の是正を求めました。  
府教委は、「組合が示す観点も踏まえて考えさせていただきたい」と述べました。



寝屋川支援分会 佐野さん



枚方支援分会 林さん



### 私が組合を続ける理由

和泉支援分会 川淵萌由



私が組合に入ったきっかけは、この仕事を始めて2年目の頃に、生理休暇が3日から2日に減らされたからです。今まで先輩の先生方が勝ち取ってくださった権利が、放っとけばなくなってしまうと思い、入りました。

先輩の先生に誘われいろいろな学習会(交通費あり)に参加していく中で、たくさんの人(夫も)と出会い、いろいろな考え方にふれることで、自分自身の成長とやすらぎにつながりました。

今は子育て中のため何もできていませんが、また機会があれば、周りの人の助けになれるよう、組合に恩返しできればいいなと思っています。

### 寄宿舎教員の採用試験再開を

南視覚支援分会が、寄宿舎指導員16人のうち、正規が7人、臨時が9人で、半数以上が臨時職員である実態を発言しました。また、たが、具体的な手立てについては回答しませんでした。  
大障教は、「過大・過密」や府教委の通学区区域割で生じている教員不足であり、府独自の加配を強く求めました。しかし、府教委は「教員定数の配置の中で、この状況を加味してしっかりと考えさせていただきたい」と述べるにとどまりました。  
南視覚支援分会は、60代、50代が大半であり、正規職員が必ず入る宿直勤務シフトを組む困難を述べました。加えて、このままでは、積み上げてきた寄宿舎における生活教育の継承もできないことから、寄宿舎教員の採用試験再開を強く求めました。  
府教委は、寄宿舎教員の平均年齢などを踏まえて、「採用再開可能性について検討していたが、今後の寄宿舎のあり方を定めた上で検討すべき事項と判断した」とし、採用試験再開について回答しませんでした。  
寄宿舎の運営方針が定まらない中で、採用再開の判断ができないとする府教委に対し、交渉参加者から、「何十年も定まっていな」と発言があり、交渉は怒りにつつまれました。  
大障教は、1月に発表された府学校教育審議会答申において、寄宿舎について「今後もその機能の維持に努めていく必要がある」と記載されていることから、再度、寄宿舎教員の採用試験再開を強く求めました。



南視覚支援分会 堀部さん